

欧州における民生品の安全確保

2011年5月17日

東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻

中尾 政之

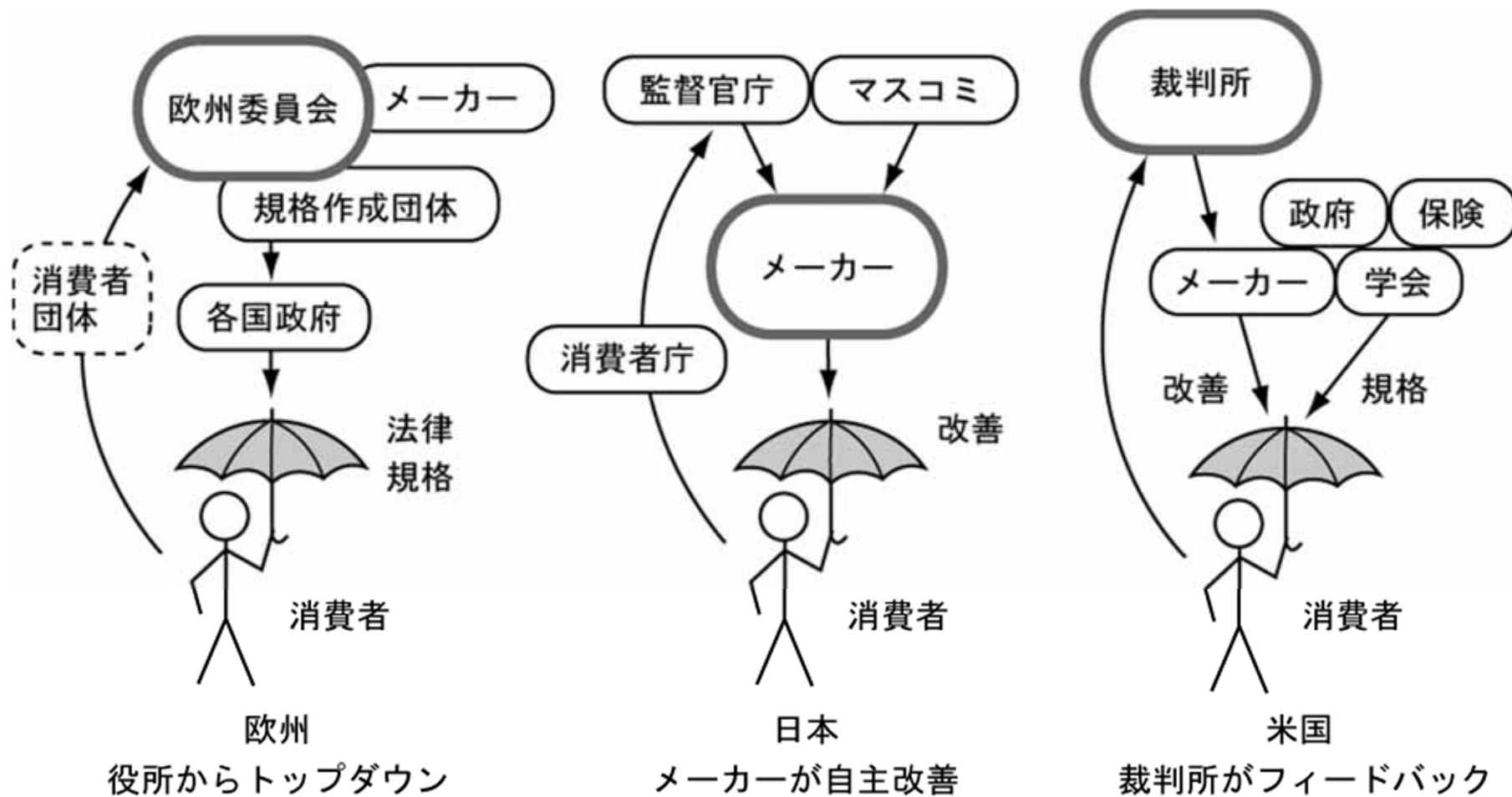


図3 日米欧の民生品の安全対策

1985年からのNew Approach

1. EC Directive を作成

Essential requirement だけ定義する

つまり、Designed outcome のように設計解は特定しない

2. Standard を作成

Harmorized な規格を作る (国内規格、産業の都合が通る)

Essential requirement を満足する技術仕様を詰める
(これも形状や材料の設計解を決めるのではない。
主に評価テストの条件を詰める)

3. Conformity assessment (適合評価) を認定

規格はvoluntary (必ずしも適合する必要はない。しかし、普通は別解も
存在しないので、30-40%は自動的にMandatoryになる)

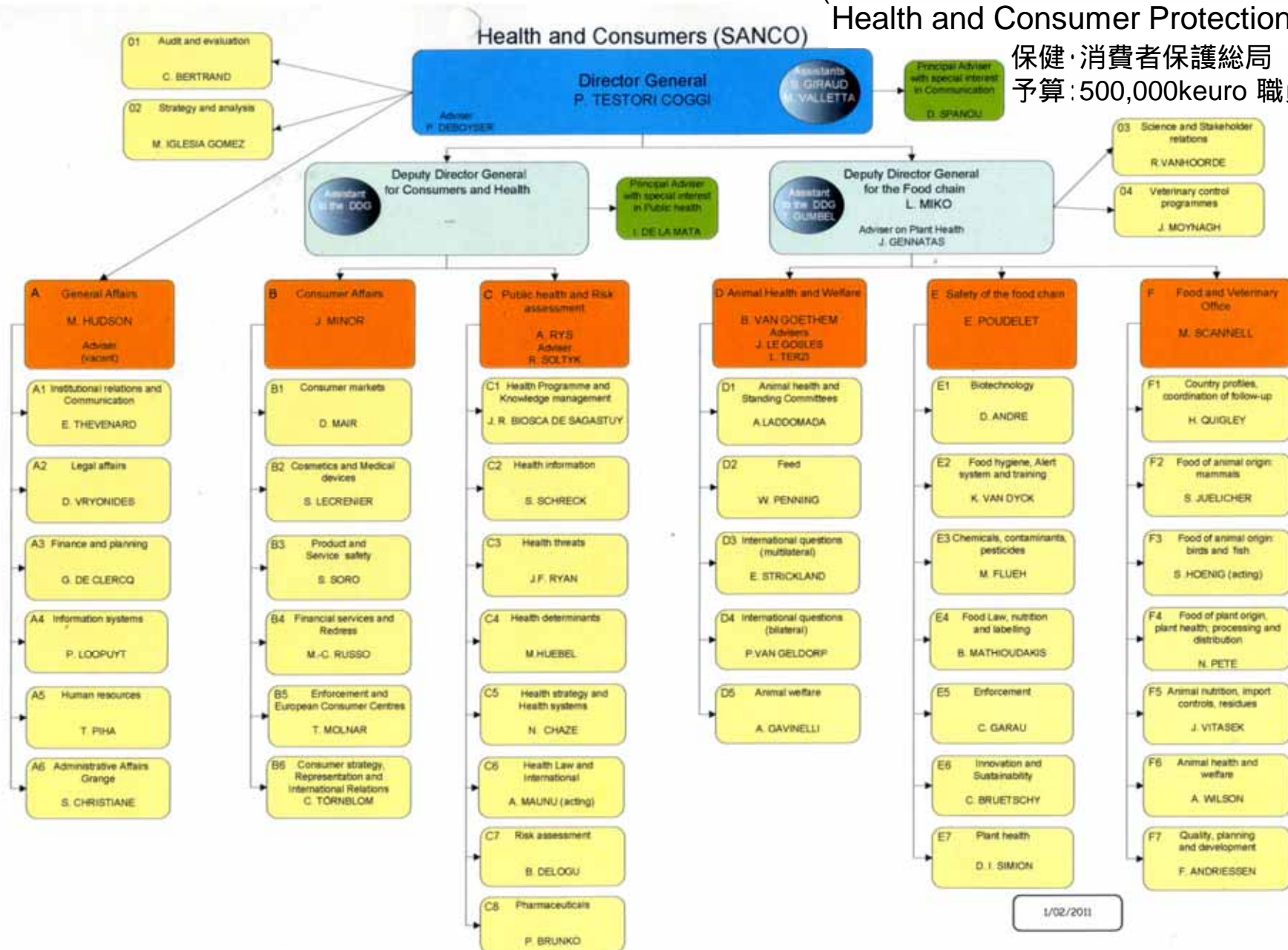
もし適合したらCEの認証シールを貼る

第3者認定は必要なし(つまり自社評価で可、粗悪輸入品の流入も避けられず)

(Directorate General for Health and Consumer Protection)

保健・消費者保護総局

予算: 500,000keuro 職員: 700名



欧州委員会の安全関係の組織図

ヨーロッパ規格

- ・政府・産業・学会の規格は命令ではない (voluntary)
- ・政府・産業・学会の関係組織に公開し、透明性を維持する
- ・コンセンサス (consensus) をヨーロッパ全体で構築する
- ・ヨーロッパ規格を31の各国の規格に代わって確立する
- ・5億人の市場を反映する
- ・国際規格 (ISO、IEC) と協力する (1/4はISOと同時進行)

規格の対象製品

航空

化学

建築

民生品

エネルギー

環境

食品

健康機器

健康・安全

冷暖房

情報

材料

機械工学

度量衡

保障・防衛

サービス

交通

つまり、生活の回りのすべてが対象

規格を作る団体

CEN 一般機器向

(European Committee for Standardization)

CENELEC 電化製品向

(European Committee for Electrotechnical Standardization)

ETSI 通信機器向

(European Telecommunications Standards Institute)

CENの規模(2009年)

ヨーロッパ規格の認定:1303件
(1992年以來18年間で13745件)

活動中の技術委員会:292組織

バランスシートの資産:13,686 keuro

損益計算書の支出:15,574 keuro
(内、人件費:6,512keuro)

スタッフはたったの80人、でも60,000人のエキスパート
収入:各国(30カ国)や団体からの会費54%、EU支援44%

規格ができるまでの過程

プロジェクト提案

↓
(各国の産業、政府が発議、消費者やマスコミからの流れではない)
(Directiveはmandatory, Standardはvoluntary .
つまり、Directiveを満たせば別解でも可)

技術またはプロジェクト委員会で規格案を作成

(5ヶ月程度で作る)

各国の規格作成団体や政府、製造者の業界団体と交渉

(延々と続く、ここで消費者団体も入る)

投票 (3年以内、人口に比例した重み付き、71%以上で承認)

ヨーロッパ規格として各国の規格と入れ替える

消費者団体

ANEC

(European Association for the Co-ordination of Consumer Representation in Standardisation)

BEUC

(European Consumers' Organisation)

ANEC

予算：EU内の各国から1300keuro (CENより1ケタ少ない)

消費者団体は独仏英くらいしか存在しない

80人のボランティア (給料は払わず) のエキスパートが実験・調査

プロジェクト数：450

Market surveillance に注力 (RAPEXの分析)

事故情報システム

RAPEX (Rapid Information System)

主に 病院から事故情報を入手

2001年のDirective で開始

(今まで独仏英には国内システムがあった)

| No. Ref. | Notifying country | Product (Click on the photo to enlarge) | Danger | Measures adopted by notifying country | Products were found and measures were taken also in: (*) |
|--------------|-------------------|--|---|---|--|
| 1 0350/11 | SPAIN | <p>Category: Clothing, textiles and fashion items</p> <p>Product: Baby's jumper "Junior & Baby"</p> <p>Brand: Neck & Neck</p> <p>Type/number of model: Model 10I10205 (size 0M, 50-55 cm)</p> <p>Description: White and pink baby's jumper with pink ties on the shoulder. It has a cardboard label, marked on one side with the indication: NECK&NECK. Junior&Baby. The other side reads, among other things: 10I10205. SIZE: 0M. COLOUR: 30.</p> <p>Country of origin: Spain</p> | <p>Strangulation</p> <p>The product poses a risk of strangulation due to the presence of drawstrings in the neck area.</p> <p>The product does not comply with the relevant European standard EN 14682.</p> | <p>Withdrawal from the market ordered by the authorities.</p> |  |

参考: RAPEX HP

http://ec.europa.eu/consumers/dyna/rapex/create_rapex.cfm?rx_id=352

まとめ

日本の消費者庁の活動を欧州と比べると、

(1)消費者庁は消費者、メーカー、マスコミ、監督官庁と情報を共有し、メーカーの自主改善によって、安全な製品を欧州並みに作っている(のでよくがんばっている)。

(2)消費者庁が欧州のように規格の作成を命令する権限をもたないと、事故に先立って安全を確保するシステムが用意できず、粗悪な輸入品の洪水を防ぎきれなくなる。